

韓日若年層の話題及び会話内容に関する 研究

ーアンケート調査と会話分析を中心にー

李正子*

目次

1. はじめに
 2. 先行研究
 3. 研究方法
 4. 話題に関するアンケート調査
 - 4.1 調査対象者と方法
 - 4.2 調査結果と考察
 5. 会話分析
 - 5.1 会話資料収集の対象者と方法
 - 5.2 分析結果と考察
 - 5.2.1 自己開示の内容
 - 5.2.2 発話回数と発話時間
 6. まとめ
-
-

1. はじめに

日本語を教える際に、重要になるのが、シラバス(syllabus)である。「何を」「どんな形式」で表すかによってシラバスはいくつかの種類に分類される。そのうち、話題シラバスというものがあるが、この話題シラバスに基づいてつくられた教材が韓国でもいくつも市販されている。1)

* 中央大学校 日本語教育院 講師

そのなかで『フリートーキング』と題されている教材を見ると、あるテーマについて学習者らが自由に会話することを目的につくられており、それについての簡単な導入文章、関連語彙、質問などで構成されている。実際の会話の授業でも多く使われている。

筆者もこれらの教材を用いて授業をしていて疑問に思うことがいくつかあった。それは、① 韓国人日本語学習者はどのような話題に興味を持っていて、また母語を話す時はどのような話題が多いのだろうかというものである。高見沢(1996)は、話題シラバスでは話題と学習者の興味が一致していれば、学習者の動機が強化され学習も一層促進される。それだけにニーズ調査で得た資料を十分に検討し、学習者に魅力ある話題を集めることが大切であると指摘している。このように韓国人・日本人の若年層が友達とどのような話題が多いのかを知ることは、日本語教育において意義のあることと考える。

② 特定の話題について話す時、自分の考え、意見をどのくらい話しているのだろうか。それと同時に、それは日本語母語話者も同じであろうかというものである。熊谷・石井(2005)のなかで、「同じ話題でもどれだけ私的な考えや情報を述べ、どの程度の自己開示を行なうことが適切と考えるかは文化によって異り得る(Barnlund1975)」とある。それは、逆に言えば同じ話題をしても私的な考えや情報、自己開示の程度により両国で誤解が生じるのではないかと考える。

③ 発話の回数と発話時間である。筆者が会話指導をしていて韓国人日本語学習者は一人の発話が延々と続くことが多く、相手も一人が話し終って自分の話をし始めるなど直前の相手の発話との関係を保ちながら自分の発話を始めることが少ないと感じてきた。このことは、単に外国語を話す時だけに起りうる問題なのか、それとも学習者の母語会話スタイルが影響しているのかを明らかにし、実際の会話指導に役立てたい。

2. 先行研究

「どのように話すか」についての研究は盛んになされているが筆者が試みようとする「何を話すか」ということについての研究は少ない。その中でも初対面会話における話題選択をあげたものに三牧(1999)と奥山(2000)がある。

三牧(1999)は、日本語母語話者である大学生同姓の初対面の話題項目には共通性が高く、初対

-
- 1) 朴舜愛・岡俊光・小峰理奈(1996) 『일본어뱅크 프리토킹 Style 1,2』, 일본어뱅크
 長田裕敬(1996) 『중급에서 즐기는 쉬운 프리토킹』, 시사일본어사
 千秋英二・高野進・岡崎学(2001) 『일본어회화 즐거운 프리토킹-초중급자용』, 시사일본어사
 千秋英二・高野進・岡崎学(2001) 『일본어회화 즐거운 프리토킹-중상급자용』, 시사일본어사
 二日市壮・小沢康則・吉本一・黒木了二(2003) 『다락원 일본어회화 프리토킹-Free style-』, 다락원
 二日市壮・小沢康則・吉本一・黒木了二・ジョイ・ワトソン(2003) 『다락원 일본어회화 프리토킹-Exciting style-』, 다락원

面話題選択スキーマは確認されたとしている。

奥山(2000)は韓日それぞれの同国同姓の大学生の初対面の会話を各時間帯での変化、情報収集としての質問、自己開示の3つを柱に分析を行っており、①話題内容は会話開示部で韓国人が日本人より身上調査的な話題が多用されている。②話題導入においては、日本人が韓国人よりもっと多くの話を導入していて、特に自己開示の頻度は日本人が韓国人より多い。③一分以上の発話時間の頻度は圧倒的に韓国人が多いという分析結果を示している。

任(1993)は、韓国人および在日・在米韓国人を対象に、親しい友だちとの話題に関する意識調査研究を行っており、若年層では「仕事」「社会」の話題が多く、「天候」「健康」に関する話題は中年・老年層より低く、20代に「社会問題(22.2%)」や「政治情勢(12.27%)」に関する話題が多いことにも注目し、韓国の社会、政治情勢の反映であるとも指摘している。

熊谷・石井(2005)は、会話における各種の話題に対する意識、特にどのような事柄について相手と話し合ったり自分の情報を出したりすることを適切、または不適切と考えるかについて相手を親疎、年齢差、性別ごとに分けて日本人と韓国人を対象にアンケート調査と面接調査を行った。このなかで、韓国人と日本人の若年層でよく知っている知人に対して〈進んで話題にする〉が多かったのは「異性の友人、恋愛」「趣味」「スポーツ、テレビ番組、映画、芸能人」「余暇の過ごし方」で反対に話題にしたくない〈が多かったのは「身長、体重などの体のサイズ」「自分や家族の収入」「宗教、信仰」が挙げられたとしている。

中川(2001)は、自己開示と話題についての研究をしている。話題の開示度への影響に関して(1)「趣味と嗜好」(2)「仕事と人格」「性」(3)「家族」「身体と健康」(4)「社会民族問題」(5)「金銭」の順で深く話されていると示唆している。

このように「何を話すか」という話題についての研究は初対面であったり、親しい友達同士の意識調査で具体的にどの話題が多いかというデータは皆無に等しい。また友達との会話において特定の話題が実際のやりとりのなかでどのように話されていて、どのように展開されているのかという会話分析もほとんどなされていない。自己開示という点においても、初対面会話を中心に研究がなされてきたようだ。そこで、筆者は友達同士の会話においての話題選択、自己開示の内容、発話回数と長さを中心に研究を進める。

3. 研究方法

まず、どのような話題が多いかについて韓国人・日本人の若年層にアンケート調査を行う。そして、そのアンケート調査の結果、韓国人・日本人に共通して多かった話題を取り上げ、その話題について韓国人3組、日本人3組による会話を分析する。本稿では、話題別に韓国人、日本人がそれぞれ、どのような自己開示をしているか(情報型・意見型)、発話の回数と長さについて調べてみることにする。

4. 話題に関するアンケート調査

4. 1. 調査対象者と方法

本調査は、2005年12月下旬から翌年の1月下旬にかけて20.30代の韓国人228人（男性107人、女性121人）、日本人142人（男性61人、女性81人）を対象にアンケート調査を実施した。アンケート内容は、友達と話す話題について1位から5位までの順位を予備調査をもとに作成した選択項目の中から答えてもらうというものである。回答者は、調査に協力を得やすい人を対象とする有意選択方式を取った。

また、アンケートの配布、回収は韓国においては筆者が直接配布、回収または知人に依頼し、郵送による回収を行なった。日本においては、筆者の知人およびその知人に調査への協力を頼み郵送で配布、回収した。さらに、電子メールによる配布、回収も行なった。配布数は計450部で回収数は403部であった。そのうち有効数は、郵送274部(74.1%)と電子メール96部(25.9%)の合計370部であった。

回答者の基本的属性は<表1>のとおりである。

<表1> 回答者の基本的属性一覧

		韓国人	日本人
全 体		228人(100.0%)	142人(100.0%)
性	男性	107人(46.9%)	61人(43.0%)
	女性	121人(53.1%)	81人(57.0%)
年 齢	20代	121人(53.1%)	78人(54.9%)
	30代	107人(46.9%)	64人(45.1%)
職 業	会社員	110人(48.2%)	67人(47.1%)
	学生	71人(31.2%)	49人(34.5%)
	主婦	18人(7.9%)	13人(9.2%)
	その他	29人(12.7%)	13人(9.2%)

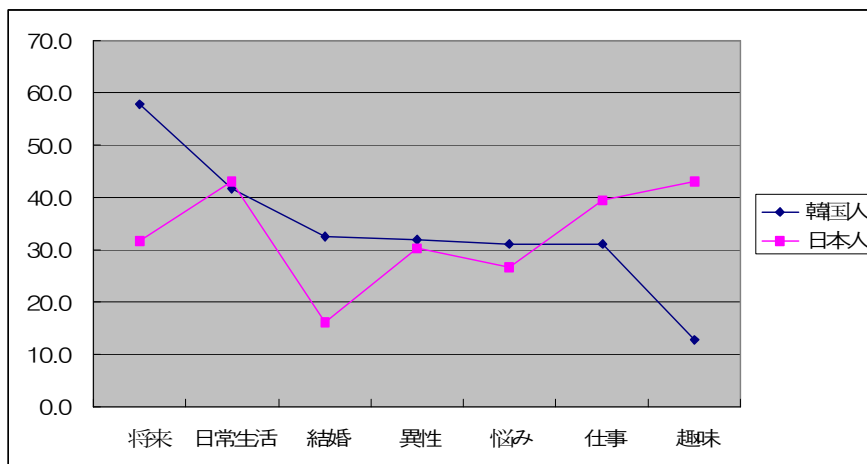
4. 2. 調査結果と考察

<表2>は、友達とよく話す話題を1位～5位の順位に関係なく累計で集計した結果を韓国と日本の国別に示したものである。この表から順位に関係なく、どの話題が多くの人によって話されているかを見ることが出来る。<図1>は<表2>のデータを図に表して比較したものである。

<表2>友達とよく話す話題(国別)

	韓国人		日本人	
1位	将来	132人(57.9%)	日常生活 趣味	61人(43.0%) 61人(43.0%)
2位	日常生活	95人(41.7%)	仕事	56人(39.4%)
3位	結婚	74人(32.5%)	将来	45人(31.7%)
4位	異性	73人(32.0%)	異性	43人(30.3%)
5位	仕事 悩み	71人(31.1%) 71人(31.1%)	悩み	38人(26.8%)

<図1> 友達とよく話す話題(国別)



上位にランクされている話題項目は、韓国と日本で「将来」「日常生活」「悩み」「異性」「仕事」など20.30代の若年層らしい話題が共通の話題としてみられる。ただ、割合の違いがはっきりしている。韓国人は6割近くの人が「将来」についての話題をとりあげるが、日本人は3割と韓国人に比べるとかなり低いことがわかる。

一方、日本人で最も多かった話題は「日常生活」「趣味」である。「日常生活」とは日常に起こったことなど、とりとめもないことを話すというものであるから自分の意見を熱く語る内容ではなく日本人の差障りのない内容を好む傾向がみとれるのではないか。このようにみると、「将来」も「日常生活」も自分のことについての話ではあるが、内面の自己開示度は「将来」の方が深い。したがって、韓国人は

自己開示度の高い内容の話題を、それに対し日本人は自己開示度が低い内容の話題が多いと言えるのではない。「趣味」については、中川(2001)で日本人は「趣味と嗜好」に関する話題が最も好まれるが、その理由の一つとしては、対人関係において生じるリスクの低さが考えられる。「趣味と嗜好」は個人の好みを如実に表す話題とはいえ、どちらかと言えば、内面の表出度は浅く、それによって対立を引き起こすことも稀であると述べている。このことから日本人は親しい間柄である友だちでも相手との関係保持に気を使いながら話題を選択していると言える。

また、韓国人では「結婚」が32.5%と3位に上がっているのに対し日本人は16.2%とそれほど多くない。興味深いのは、両国とも「結婚」と関連している話題である「異性」については同じような割合を示していることである。そして、「恋愛」については上位ランクされていないが日本人では20.4%と「結婚」より高い。一方、韓国での「恋愛」の話題は11.2%と低い。このことは、両国とも異性については同じように関心があるが日本では「結婚」より「恋愛」、韓国では「恋愛」より「結婚」に関心が高いと言えるのではないだろうか。実際、韓国でのテレビドラマの題材も「結婚」をテーマにしたものが多く、初対面でも結婚をしているかしていないか、どうしてしないのかと言われることもよくある。それほど、韓国では「結婚」に対する関心が高いと言えそうだ。

「その他」で具体的に記入してもらったものなかで、日本人回答者5人(3.5%)が「食べ物」「おいしい店」と答えている。これは韓国人回答者には皆無であった。このことから、日本人の食べ物に対する関心の高さがうかがえるのではないだろうか。ある韓国人が、日本に行って日本人がレストランや有名なラーメン屋の前で行列を作って何時間も待っている光景を見て、日本人の食べ物に対する執着は韓国人には想像できないほどだと言っていた。確かに、日本のマスメディアなどもこぞって話題のレストラン特集や各地の特産物をわざわざ注文して自宅で食べる「お取り寄せ」特集、また最近では甘いものの意味での「スイーツ(Sweets)」という言葉が登場し、その特集を取り上げている。こういうことから日本人の若年層で「食べ物」の話題が取り上げられるのもうなずける気がする。

また、「その他」として韓国人は「宗教、信仰」を挙げている回答者が7人(3.1%)いたが、日本人には皆無であった。実際、筆者が担当している日本語会話クラスで週末の出来事をテーマに会話をすると必ずと言っていいほど「教会に行きました。」などと発言する学生がいるが、日本で特に若年層でそのような発言を耳にすることはほとんどない。また、韓国の大学の学生食堂や休憩室などで学生同士が集まって聖書の勉強をしたり、それについてお互い意見を交わしているのを何度か目にしたことがある。このようなことをみるとデータとしては多くないが韓国では友達の間で「宗教、信仰」を話題にしているのに対し、日本人は皆無であることは相違点と言えるのではないだろうか。

熊谷・石井(2005)の調査の中でも次のような報告がある。韓国人・日本人男女ともに「宗教」は〈話題にしたい〉が優勢ではあるが、その割合は韓国人で3~4割であるのに対し日本人では4割~6割、〈進んで話題にする〉は韓国人が1~2割であるのに比べ、日本人は0~1割と少ない。このことから、韓国人の方が「宗教」の話題に対する抵抗は少ないとみられる。

5. 会話分析

5.1. 会話資料収集の対象者と方法

会話分析の対象者としたのは、韓国語を母語とする20、30代の韓国人男性3人と韓国人女性3人、日本語を母語とする20.30代の日本人男性3人、日本人女性3人である。会話相手は、性差を考慮し同国女性同士1組、同国男性同士1組、同国男性女性混合1組に分けた。本調査は、2006年2月中旬から下旬にかけて行い、韓国人の会話資料収集は韓国のソウルで、日本人は筆者の出身地である日本の山口県で行なった。場所は大学内の研究室や比較的、静かな喫茶店などで行なった。録音にはカセットテープレコーダーを使い、同時に簡単な調査も行なった。被験者には研究の詳細は知らせないが、友達との会話分析のための資料収集であり、できるだけ自然な会話をして欲しいと伝えた。会話相手の関係は高校、大学時代の同窓生である。

具体的な方法としては、まず最初に「日常生活」について話してくださいと話題を指定し調査者は部屋を出た。15分後に終りを告げるノックをし、話をまとめて終らせた。続いて「将来」「異性」についての話題で話してもらい、1組45分の会話資料を収集した。分析のために文字化した部分は、なるべく自然な部分を分析することが望ましいと考え、各話題ごとに会話開始5分後からの5分間とした。被験者については<表3>に示すとおりである。

<表3> 会話資料の被験者一欄

	会話番号	被験者略号	性別	年齢	職業
韓国人	①	KF1	女性	27歳	大学生
		KF2	女性	28歳	主婦
	②	KM1	男性	32歳	会社員
		KM2	男性	32歳	会社員
	③	KM3	男性	26歳	大学生
		KF3	女性	27歳	大学院生
日本人	④	JF1	女性	31歳	会社員
		JF2	女性	31歳	主婦
	⑤	JM1	男性	28歳	大学院生
		JM2	男性	28歳	大学院生
	⑥	JM3	男性	29歳	社会人学生
		JF3	女性	30歳	社会人学生

凡例(K:韓国人 J:日本人 F:女性 M:男性)

5.2. 分析結果と考察

5.2.1. 自己開示の内容

ここでは、話題別に韓国人、日本人がそれぞれ、どのような自己開示をしているか、特に自分の意見を述べるという点について注目し調べてみることにする。

まず、その前に自己開示について中川(2001)は、自己開示に関する実証的研究の先駆者であるJourard(1971)の定義を次のように引用している。

開示するとは、ベールをとること、あらわにすること、あるいは示すことである。自己開示は、自分自身をあらわにする行為であり、他人が知覚し得るように自身を示す行為である。

また、奥山(2000)は、西田(1983)の定義を次のように引用している。

自己開示とは、文字どおり、自分のことを人に打ち明けることである。そして、自己開示では次の3つの基準を満たしていなければならない。第1は、情報の送り手に関する個人的な情報を含んでいなければならない。第2は、情報の送り手が言葉で伝達しなければならない。第3は、情報の到達点がもう一人の受信者でなければならない。

自己開示については、心理学分野でも広く研究されているが、カウンセリング用語集によると「自己開示とは、自分自身の情報(感情、経験、価値観)などを他者に言葉で伝えること。」とある。

そこで、本研究では、自己開示を「自分自身に関する情報、つまり、感情、意見、経験などを会話相手に対して言語を媒介として伝達する行為」と定義する。

そして、自己開示の内容として、例えば本会話資料にもあるように「나, 요즘 완전 살 빼는라고 2시간 운동하잖아.(私、最近やせようと思って2時間運動してるじゃん。)」や「うちの兄貴はまだ学生さんで。」などの自分の体験や自分に関する情報などを伝える情報型の自己開示と、「結婚するってことがリアルに感じられなくなってきて、だんだん。」や「마음에 대한 여유는 본인이 생각하길 나름인 것 같애.(心の余裕は本人の考え方次第みたい。)」などのような意見型の自己開示に分けて調べる。このように分類したのは、本稿では紙面の関係上取り上げていないが各話題ごとの会話内容を分析した際、日本人は自分の体験談などを多く話すのに比べ、韓国人は自分の考えを述べる話題が多いという結果が得られたため、同じ自己開示でも内容に差が出てくるのではないかと考えたからである。

〈表4〉 話題別にみる自己開示内容の1組当たりの平均回数(国別)

話題 自己開示 の内容	韓国人			日本人		
	日常生活	将来	異性	日常生活	将来	異性
情報型	8.0回 (41.5%)	4.0回 (23.1%)	3.0回 (13.0%)	9.7回 (64.7%)	7.7回 (46.1%)	6.0回 (29.0%)
意見型	11.3回 (58.5%)	13.3回 (76.9%)	20.0回 (87.0%)	5.3回 (35.3%)	9.0回 (53.9%)	14.7回 (71.0%)
合計	19.3回 (100.0%)	17.3回 (100.0%)	23.0回 (100.0%)	15.0回 (100.0%)	16.7回 (100.0%)	20.7回 (100.0%)

まず、自己開示の合計では韓国人の方が日本人より多い。そして、情報型か意見型かという自己開示の内容についてみると、韓国人と日本人とでは大きな差がみられる。どの話題においても情報型の自己開示は日本人の方が多く、意見型の自己開示は韓国人の方が多くなっている。つまり、韓国人は日本人に比べて自分の考えを話すことが多く、一方の日本人は韓国人に比べ自分の考えよりは自分の情報を相手に話すことが多いと言える。

話題別に詳しくみると、韓国人はどの話題においても情報型より意見型が多いのに対し、日本人は話題によってその割合が変わってくる。「日常生活」の話題においては、意見型より情報型が多く「将来」の話題では若干、意見型が多くなっている。そして、「異性」の話題においては、意見型が情報型に比べ非常に多くなっている。

5.2.2. 発話回数と発話時間

発話回数というのは一人の発話が相手の発話によって途切れる直前までを発話としてそれがいくつあるかを数えるものである。(堀口1990)なお、ここでは聞き手によるあいづちなどの発話遂行の妨げにならないものは、話し手の発話に入れた。このような発話回数を調べることで、ある一定の時間内で、話し手とその相手がそれぞれどのくらいの頻度で発話する機会を得ているかをみることができると考える。

〈表5〉 話題別にみる一人当たりの平均発話回数 (国別)

	韓国人	日本人
日常生活	20.6回	26.8 回
将来	11.2回	20.3 回
異性	14.7回	25.8 回
発話回数の平均	15.5回	24.3 回

どの話題においても一人当たりの平均発話回数は、日本人の方が多く、話題によって発話回数が増えることも少ない。特に「将来」「異性」についての話題においてその差が大きい。韓国人に発話回数が少ないということは、それだけ一人の発話時間が長いということになる。これは、奥山(2000)の初対面会話における一人の発話時間は、韓国人の方が長いという結果と一致するものである。

そこで、〈表 6〉に話題別に発話の長さとその回数を示す。

〈表 6〉 話題別にみる発話時間と回数 (国別)

話題 発話時間	韓国人(6人)			日本人(6人)		
	日常生活	将来	異性	日常生活	将来	異性
30秒以上1分未満	4回	8回	7回	4回	5回	2回
1分以上	2回	3回	1回	0回	1回	0回
合計	6回	11回	8回	4回	6回	2回

〈表 6〉をみると「将来」については、韓国人が30秒以上話す回数は日本の約2倍近いことが、また「異性」については4倍も多いことが分かる。しかし、「日常生活」についてはその差はそれほど大きくない。では、このような違いはなぜ出てくるのか。

会話内容を詳しく見てみると「日常生活」については、韓日間でそれほど大きな差はあらわれなかった。自分の身の回りで起きた出来事や仕事、勉強について相手に伝えたり質問したりという近況報告的なものであった。実際に、30秒以上話す内容をみても自分の考えよりも今の職場や勉強、生活についての状況説明が多い。

しかし、「異性」についての会話内容では、韓日間で大きな差がみられた。日本人が30秒以上話す内容としては、具体的な例をあげながら自分の好きなタイプについて話す内容と昔の恋人と別れた理由についてであった。一方、韓国人は先述したように意見型の話題が多かったため自分の考えを話すものが目立つ。例えば、未婚女性が増える理由についての自分なりの考えや結婚相手をどのように選べばよいか、最近の男女交際が乱れていることについての批判的な意見や理想のタイプと現実とのギャップがおこる理由について自分なりの考えを述べるようなものである。

つまり、韓国人は意見を述べる内容で多くの時間を費やしていることがわかる。そのことは「将来」についての会話をみてもはっきりしている。ここでは韓日ともに自分のしたいこと、進路について自分なりの考えを話す内容が多い。にもかかわらず、韓国人の方が発話回数、時間とも2倍以上多い。これは、両国に意見の述べ方の違いにその原因があると思われる。金志宣(2000)は、両国の会話スタイルの差について韓国語の場合は『対話的姿勢』²⁾(岡田1988 : 舟橋1994)で、日本語の場合は、『共話的姿

勢』³⁾(水谷:1983 : 岡田1988 : 舟橋1994)であるとまとめている。このような会話スタイルの差から同じ意見を述べる時でも、日本人は一方的に長く話すのではなく話し手と聞き手とが協力して会話を進めるように、聞き手が相手の考えを聞いてその内容について補足的に質問を投げかけている例が多いため当然、発話回数も多くなると考える。本資料から例をあげてみる。日本人男性と日本人女性の会話で「将来」について話している場面である。

A : 僕ね。将来の夢はね。ペンションやりたいんだよね。

B : へえ。すごい、あはは。合ってるかも。でも

A : ペンションやりたいんだ。

B : え、そうなん。昔から?

A : 昔からやりたかったんだ。(へえ) で、調理士持ったのもそれなんだ。

B : でも、ホストってなんかあいそうやね。

A: いろいろ理想があって、(うん)こう、お客さんを一日に6人なら6人一組しかいれないペンションで、(うん)で、そこで朝、自分が買い出しに行ったりだとかつりにいったりだとかして食材をとってきて(へえ)、それでお客さんの食べる進行を見ながらコース料理を配って(へえ)そんで、その場で酒飲んだりだとかしながら楽しめる空間を作ろうっていうことがやりたかったんだ。(へえ)それで、ペンション経営がやりたかったんだ。夢で(うんうん)で、ペンション経営するんだったら(うん)調理士で働いて稼いでもたかかかしている。(うん。まあね)うん。じゃ四大出てる程度の仕事就いて(うん)稼げた方がいいなっておもって四人行こうと思ったんだ。

B : じゃ、最初は調理士の学校行ってたん?

A : うん。

B: 高校卒業して?

A: うん。いや。高校でとったんだ。

B: え?とれるん?

A: 高校がとれる学校だんで。(へえ)で、やっぱ大卒で仕事したほうがいいと。でも、やりたくないことはうやりたくない。

B :うん。うん。そんな感じよね。〈笑〉

A: うん。で、その時興味あったのが心理学だったの。

最初、Aは自分の夢について話すが、Bはそれを聞いてただ相づちをうつだけでなく、評言を加えている。続いてAが自分のしたいことを述べ、Bはそれについて「昔から?」と質問をしている。次に、Aが具体的に自分の夢について話す部分は少少長くなっている(4.5秒)が、BはAの話で気になった部分に

2)話し手と聞き手の立場がはっきり分かれており、話し手になると言いたいことをはっきり言うが、聞き手になると傾聴や理解を示すシグナルをあまり発せず黙って聞くという会話スタイル。

3)話し手と聞き手の役割がはっきり分かれているのではなく、聞き手であっても相づちのような発話を頻繁に発しながら話し手とともに会話を進めていくといった会話スタイル。

ついて「最初から調理士の学校行ってたん？」と途中で質問している。以下、Aが話した内容についての質問が続いているのを見ると、自分のことを一方的に一人が話すというより二人でAのことについて協力しながら話を展開している様子がみてとれる。

一方、韓国人の例をみてみる。同じ韓国人男性Dと女性Cの会話で「将来」についての会話である。

C : 몰라 나는, 그냥 가능하면 만약에 JET가 되면, JET을 한 2년에서 3년, 1년은 너무 짧은 것 같고 경력도 안 되고, (응) 한 2~3년 정도 갔다 온 다음에 T가 그때 아무래도 캐나다에 있을 거 아냐. (응) 캐나다에 한 6개월 정도 (응) 아니면 짧으면 3개월 정도... 4)근데 어찌 됐던 간에 JET 되면, JET을 먼저 갔다가 캐나다에서 3개월에서 6개월 정도 어학연수 겸 약간 쉬는 겸, 그래서 있다가 KOICA 하고, 근데 나 중국에 가고 싶어, 필리핀은 솔직히 별로고... 나 중국 가고 싶어.(응) 그렇게 하면 아기를 못 갖겠지? 결혼도 조금, 결혼이야 할 수 있을지 모르겠지만 그렇게 하면 벌써 서른다섯 살 정도 되잖아?

D : 근데 일단 연수라는 게 많이 앞을 내다보는 거잖아...

C : 그러니까는...그리고 가능하면 나는 계속 KOICA 같은 걸로, JET랑 KOICA의 다른 게 JET 는 보장을 안 해주지 뒤에 (응) KOICA 같은 경우는 ### 라는 것도 있어 가지고, 계속 내가 나가지. 계속 보장을 해 주는 거야. (응) 계속 계속 나갈 수 있도록. 그러니까는 만약에 괜찮으면, 자원봉사 그냥 그렇게 평생 (응) 왔다 갔다 하는 것도 나는 괜찮을 것 같아.그렇게 되면 결혼도 포기해야 하고, 애기도 못 낳을 것 같아. (응) 남편한테도 힘든 거지.

D : 그렇게 계속 나갈 생각하면 그래야지.

C : 그런데 만약에 뭐... 결혼도 해야 되고 그러면, 근데 어찌 됐던 간에 나는 약간 JET도 하고 싶고 KOICA도 하고 싶어서 갔다 온 다음에 정착을 해도 그냥 한국에도 그때쯤에 서른서너 살 넘버잡으면 서른다섯 살... 그때 결혼 하면은 아마... 그때쯤에 아마 정착을 하게 될 것 같아.

D : 나는 잘 모르겠네... 일단 학교 다니고, 2년 다니면서 생각 해야지. 나는 2년 동안 변할 것도 많을 거고, (응) 그러니까 <침묵 2초> 차근차근 준비해 나가 는 거지, 영어 공부도 하고, 학과 공부도 하고, 다른 것 도 필요한거 생기면 공부하고, 그런 식으로...

最初に、C가自分のしたいことを話し、Dはそれについて評言はしているものCは続けて自分の進路について話を進めている。そして今度は、Dが自分のこれからの計画について話し始めている。このように、相手の話したことについての評言はしているものの、聞き手と話し手ははっきり分かれておりそれぞれの

4) 「…」は言い淀みを表す。

独話⁵⁾のようである。

6. まとめ

本調査の結果、次のことが明らかになった。

①友達との会話において、韓国人は「将来」、日本人は「趣味」「日常生活」の話題が一番多かった。つまり、韓国人は日本人に比べ自己の内面の表出度の高い内容の話題が多いのに対し、日本人は当たり障りのない内容の話題をよく取り上げていると言える。

②自己開示の合計は、韓国人の方が日本人より多い。自己開示の内容としては、韓国人はどの話題においても情報型より意見型が多いのに対し、日本人は話題によってその割合が変わってくるのが分かった。「日常生活」の話題においては意見型より情報型が多く、「将来」の話題では意見型が若干多くなり、「異性」の話題においてはさらに意見型が多くなった。

③どの話題においても一人当たりの平均発話回数は韓国人の方が少ない。つまり、韓国人は日本人に比べ一人の発話時間が長いということだが実際、30秒以上の発話回数はどの話題においても韓国人が多かった。その内容は、自分の考えなどを話すもので韓国人は自分の意見を話すことに多くの時間を費やしていることがわかった。

以上の結果を日本語教育に応用とするならば、まず話題選択に関するアンケート結果をもとに学習者である韓国人の関心事を把握し、授業でそれにあつた話題づくりをすることにより学習者の発話量も増え学習動機も強化されると考える。また、本調査から韓国人と日本人が同じ話題について話しても韓国人の方が自分の意見を話す意見型の自己開示が多いということが明らかになった。そして、一人の発話時間においても韓国人は、意見を述べるのに多くの時間を費やすが日本人は意見型の話題においても発話時間は少ないがそのかわり質問などをし、お互いに発話機会を与えながら話を進めている。そのため、日本人の方に質問の回数や発話回数が多くなると言える。このような会話スタイルの違いを知らなければ、韓国人が自分の意見を多く述べることに日本人は違和感を覚え、逆に韓国人はあまり自分の意見を言わない日本人に対して何を考えているのか分からないという誤解を双方がもちかねない。

したがって、意見を述べることが多いフリートーキング授業を指導する際に、学習者にこのような会話スタイルの違いに気づかせ、話し手の指導だけでなく聞き手としての指導も行なう必要がある。つまり、聞き手はただ話し手の話を聞いて相づちをうつだけでなく、質問などをしながら話し手と一緒に話を進めていけるように指導することが重要であると考えられる。

5) 小室郁子(1995)が「"Discussion"におけるturn-taking—実態把握と指導の重要性—」『日本語教育』85号日本語教育学会 63頁 で使用している用語である。それによると、独話とは「スピーチのように一人が完全に発話権を握り、原則として聞き手が話し手の発話に介入することのないものを指す」とある。

今後の課題として被験者をさらに増やし、性別や年齢による相違についても考察し特定の話題についての自然な会話抽出方法を改良しなければならない。

【参考文献】

- ・ 李正子(2006) 「話題の内容・表現に関する研究—韓日若年層の会話分析を中心に—」 中央大学校教育大学院修士論文 (未刊行)
- ・ 任榮哲(1993) 『在日・在米韓国人および韓国人の言語生活の実態』 くろしお出版 150-155頁
- ・ 岡田安代(1988) 「談話進行の機能と話し手の姿勢に関する一考察」 『資料集(1)日本語の普遍性と個別性に関する理論的及び実証的研究—外国人の日本語談話進行における誤用の研究—』 昭和62年科学研究費助成金特別推進研究 45-53頁
- ・ 奥山洋子(2000) 「質問と自己開示による情報収集の韓日比較—大学同士の初対面の会話資料をもとに—」 中央大学校大学院博士論文
- ・ 金志宣(2003) 「韓・日の会話スタイルを特徴づける要因—turn-takingと連鎖の観点から—」 『日本学報』 第55輯 韓国日本学会 37-51頁
- ・ 熊谷智子・石井恵理子(2005) 「会話における話題選択の日韓比較」 『日韓新時代における若者の国際コミュニケーションのあり方と意識に関する研究』 国立国語研究所 131-151頁
- ・ 小室郁子(1995) 「"Discussion"におけるturn-taking—実態把握と指導の重要性—」 『日本語教育』 85号 日本語教育学会 53-65頁
- ・ 高見沢孟(1996) 『はじめての日本語教育2日本語教授法入門』 アスク 32頁
- ・ 千秋英二・高野進・岡崎学(2001) 『일본어회화 즐거운 프리토킹-초중급자용(日本語会話 楽しいフリートーキング-初中級者用)』, 시사일본어사
- ・ 千秋英二・高野進・岡崎学(2001) 『일본어회화 즐거운 프리토킹-중상급자용(日本語会話 楽しいフリートーキング-中高級者用)』, 시사일본어사
- ・ 中川典子(2001) 「日本の企業人の自己開示に関する研究—特に状況的アプローチの観点から—」 『異文化コミュニケーション』 No.4 異文化コミュニケーション研究会 15-38頁
- ・ 長田裕敬(1996) 『중급에서 즐기는 쉬운 프리토킹 (中級から楽しむやさしいフリートーキング)』, 시사일본어사
- ・ 西田司 他3名 (1983) 『国際人間関係論』 聖文社
- ・ 朴舜愛・岡俊光・小峰理奈(1996) 『일본어뱅크 프리토킹 (日本語バンク フリートーキング) Style1,2』, 일본어뱅크

- ・舟橋宏代 (1994) 「談話の進行における日韓母語話者の姿勢」 『平成6年度日本教育学会春季大会予稿集』 91-96頁
- ・二日市壮・小沢康則・吉本一・黒木了二(2003) 『다락원 일본어회화 프리토킹 (多樂園 日本語会話フリートキング) -Free style- 다락원
- ・二日市壮・小沢康則・吉本一・黒木了二・ジョイ・ワトソン(2003) 『다락원 일본어회화 프리토킹 (多樂園 日本語フリートキング) Exciting style-』, 다락원
- ・堀口純子(1990) 「上級日本語学習者の対話における聞き手としての言語行動」 『日本語教育』71号 日本語教育学会 16-31頁
- ・水谷信子 (1983) 「あいづちと応答」 『はなしことばの表現』 筑摩書房 37-44頁
- ・三牧陽子(1999) 「初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー-大学生会話の分析-」 『日本語教育』103号 日本語教育学会 49-58頁
- ・Barnlund,D.C.(1975) Public and Private Self in Japan and the United States: Communicative Styles of Two Cultures. Tokyo: The Simul Press.
- ・Jourard,S.M.(1971) The transparent self. New York: D. Van. Nostrand.
- ・<http://www.h5.dion.ne.jp/> 『カウンセリング用語集』

付記

本稿は、2006年度中央大学学校教育大学院へ提出した修士学位論文を加筆修正したものである。指導して下さった任榮哲先生に心より感謝を申し上げる。

[付録] 話題に関するアンケート調査票 (日本人用)

アンケート調査

韓国の中央大学教育大学院で日本語教育を専攻している李正子と申します。現在、修士論文で「話題に関する日韓比較」の研究をしています。そこで、皆様にアンケートにご協力をお願いしていただきたいと思ひます。ここでとらせていただいた結果は、論文以外で使用致しません。お忙しいとは思ひますが、ご協力お願い致します。

韓国 中央大学教育大学院 李 正子

① あなたの性別、年齢、職業についてお答えください。

1. 男 / 女
2. 満()歳
3. 職業()

②あなたは、友だちとよく、どんな話題について話しますか。下の項目の中からよく話す話題の順序に記号でお答えください。

- 1位()
- 2位()
- 3位()
- 4位()
- 5位()

- | | | | | | | |
|---------------------|-----------|---------------------|---------|----------|----------------|-------|
| 1 異性(恋人) | 2 恋愛 | 3 結婚 | 4 趣味 | 5 芸能人 | 6 テレビ番組(ドラマなど) | |
| 7 映画 | 8 公演 | 9 読書 | 10 スポーツ | 11 ダイエット | 12 ショッピング | |
| 13 流行 | 14 ファッション | 15 健康 | 16 旅行 | 17 車 | 18 仕事 | 19 就職 |
| 20 将来(したい事/進路/夢 など) | 21 勉強 | 22 学校 | 23 家族 | 24 周囲の人 | | |
| 25 日常生活 | 26 時事問題 | 27 経済 | 28 政治 | 29 教育 | 30 金銭問題 | |
| 31 思い出 | 32 悩み | 33 その他(具体的に書いてください) | | | | |

ご協力ありがとうございました。

要 旨

本研究は、20.30代の韓国人と日本人の話題、およびその会話を比較しながら両国の共通点と相違点を明らかにすることによって韓国における日本語教育に役立てようという目的から出発したものである。

まず、友達との会話における話題選択においては質問紙によるアンケート調査を実施した。そして、そのアンケート調査をもとに韓国人と日本人に共通して多かった話題3つ(「日常生活」「将来」「異性」)について韓国人3組、日本人3組による会話を分析した。分析内容は、自己開示の内容、発話回数と時間についてである。

本調査の結果から次のことが明らかになった。①友達との会話において、韓国人は「将来」、日本人は「趣味」「日常生活」の話題が一番多かった。このことから韓国人は日本人に比べ自己の内面の表出度の高い内容の話題が多いのに対し、日本人は当たり障りのない内容の話題をよく取り上げていることが明らかになった。②自己開示の合計は、韓国人の方が日本人より多い。自己開示の内容としては、韓国人はどの話題においても情報型より意見型が多いのに対し、日本人は話題によってその割合が変わってくるのが分かった。③どの話題においても一人当たりの平均発話回数は韓国人の方が少ない。つまり、韓国人は日本人に比べ一人の発話時間が長いということだが実際、30秒以上の発話回数はどの話題においても韓国人が多かった。その内容は、自分の考えなどを話すもので韓国人は自分の意見を話すことに多くの時間を費やしていることが分かった。

このような結果を日本語教育に応用するとするならば話題選択のアンケート調査結果をもとに学習者である韓国人の関心事を把握し会話授業でそれにあった話題づくりをすることにより学習者の会話量も増え学習動機も強化されると考える。また会話指導する際、本研究結果のような韓国人と日本人の会話スタイルの違いを伝え話者の指導だけでなく聞き手としての指導も行う必要がある。つまり聞き手は単に話を聞いて相づちを打つだけでなく質問などをしながら話者とともに話を進めていけるように指導することが重要であると考えられる。

キーワード：韓日若年層、話題、会話分析、自己開示、日本語教育、発話回数、発話時間

투 고 : 2007. 5. 31
1차 심사 : 2007. 6. 9
2차 심사 : 2007. 6. 30

住 所 : (158-860)서울특별시 양천구 신정4동 1003-15 302호

電 話 : 019-548-2449

e-mail : hohohoshi@yahoo.co.kr